

# 口腔生命福祉学科

学科長 教授 葭原明弘

## 1. 教育理念と特色

口腔生命福祉学科は、平成16年に全国に先駆けて「口腔や摂食・嚥下の専門知識をもち、保健・医療・福祉を総合的に担える専門家を養成すること」を目的に設置されました。教育理念は「保健・医療・福祉に関する深い理解と専門的知識に基づき、これらを総合的に思考・展開できる指導的人材を養成する」であり教育目標として「1. オーラルヘルスプロモーションを理解し、展開できる人材、2. 全人的保健医療福祉を提供できる人材、3. 自発的な生涯学習を行うことができる人材、4. チームワークに基づく効果的な業務が行える人材」を掲げています。

教育方法として特徴的なのは2年次からの専門教育にPBL (Problem Based Learning) を採用していることです。PBLとは実社会におけるケースを学習のきっかけとして、そこに潜む問題を拾い出し、小人数グループでの討議により問題を解決していく過程です。具体的には、患者さん、または住民の経過をもとに書かれたシナリオから事実を拾い出し、その事実から生じる疑問や考えを話し合います。学生たちは疑問を解決する、または考えを検証するためにどのような知識が不足しているか確認し、学習課題を列挙します。その後、学生たちはグループから離れ、学習課題について調査、自習し、1週間後に招集された際に、調査した結果をグループで共有、検討し、自分たちの考えが妥当であったか否か議論し、問題を解決します。単なる知識の詰め込みではなく、自ら考えながら問題を解決していく能力を培っています。

さらに、平成20年度には大学院博士前期課程が、平成22年度には博士後期課程が開設されました。大学院生には社会人も含む学外者の方が多くいます。学生の背景・希望なども踏まえ、指導教

員と話し合いながら様々なテーマについて対応しています。

現在の専任教員（写真）および大学院生も含めた口腔生命福祉学科の構成員一覧（表）を示します。専任教員は、口腔保健学分野：8人、福祉学分野：6人であり、大学院生は、博士後期課程：14人、博士前期課程：9人（平成28年5月31日現在）です。

## 2. 口腔保健の向上に向けて

口腔の健康は身体の一部として全身の健康に大きく関わっています。「元気で長生き」は全ての人たちの願いです。そのためには、口腔機能を健康に保つことが重要な意味を持っています。もちろん、口腔の健康だけで健康寿命の延伸を達成することはできませんが、口腔の健康なくして健康寿命の延伸はかないません。

近年、多職種連携の必要性が叫ばれるようになってきました。歯科においても、医師、看護師、言語聴覚士、作業療法士、栄養士、管理栄養士をはじめ多くの方々と連携することが求められています。しかし、他職種との連携の構築は思ったほど簡単ではありません。特に歯科保健がテーマとなると、他の職種の方から歯科保健について声がかかる事例はそれほど多くありません。やはり歯科医師や歯科衛生士が主体となって活動を行っていく必要があります。

口腔生命福祉学科では学生全員が、歯科衛生士と社会福祉士の養成に向けたカリキュラムを受け、卒業により歯科衛生士と社会福祉士の国家試験受験資格が得られます。したがって、彼らは、歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスをもって社会に旅立っています。歯科衛生士も社会福祉士も仕事の対象は全てのライフステージに及んでいます。いずれの年代においても歯科

の視点から福祉のことを考え、また福祉の施策に口腔の健康に関することを取り入れたりしていません。

### 3. 10年後の未来予想図

10年後、どのような世の中になっているでしょうか。少子高齢化がさらにすすみ、家族や地域の繋がりもさらに希薄になり、教育や経済に起因し健康格差が非常に拡大するのでしょうか。それとも積極的な対策が功を奏し、住みよい世の中が復活しているのでしょうか。

口腔生命福祉学科の卒業生は、保健・福祉行政をはじめ、病院等医療施設、大学等教育施設、一般関連企業等、幅広い職種に就職しています。私たちが送り出した一期生は10年後、ちょうど40歳代半ばを迎え、各組織の中で中核を担う立場になっています。

歯科の視点からの多職種連携を当たり前ものとして教育を受けた彼ら、彼女らはどのような世の中を作り上げていくのでしょうか。現在、高齢者に対しては地域包括ケアシステムの構築が大きなテーマとなり、口腔ケアや口腔リハビリテーションが普及してきています。その中では当然多職種の連携が求められています。このような状況にあって、彼ら、彼女らは、さまざまな視点から口腔の健康の重要性を社会のシステムに生かし、健康寿命の延伸に寄与しているに違いありません。

また、彼ら、彼女らは学生時代より、国際交流事業に参加してきました。様々な国の歯学部 of 学生との交流を通じて、歯科のありかたについて国際的な視点から見直すことができたでしょう。東南アジアをはじめとする海外の課題についてもごく当たり前のテーマとして考えることができると思います。きっと、今後海外に飛び出して活躍する人も出ているでしょう。

口腔生命福祉学科のこの10年間の取り組みは先進的な教育システムの導入も含め社会に対して大きなインパクトを与えてきました。これからの10年、彼ら、彼女らが実力を発揮することによって、新たなインパクトを社会にもたらすと信じています。



口腔生命福祉学科専任教員

#### 口腔生命福祉学科構成員

##### 【学科長】

教授 葭原 明弘

##### 【専任教員】

###### 【口腔保健学分野】

教授 福島 正義  
教授 山崎 和久  
教授 小野 和宏  
教授 葭原 明弘  
准教授 八木 稔  
准教授 ステガロユ ロクサーナ  
准教授 柴田 佐都子  
助教 諏訪間 加奈

###### 【福祉学分野】

教授 高橋 英樹  
教授 大内 章嗣  
准教授 中川 兼人  
准教授 黒川 孝一  
助教 中島 俊一  
助教 米澤 大輔

##### 【大学院生】

###### 【博士後期課程】

山本 勝也  
中野 恵美子  
岸本 奈月  
隅田 智恵  
坂本 まゆみ  
野上 有紀子  
新井 恵  
大塚 紘未  
木村 有子  
高原 稔  
田村 謙太郎  
鈴木 瞳  
辻 友美  
中田 悠

###### 【博士前期課程】

小宮山 実里  
小粥 照子  
佐藤 茜  
佐藤 夏奈  
縄田 理佳  
保田 麻里  
有賀 彩乃  
高橋 駿介  
中川 雪人